

第2学年1組 学級活動学習指導案

第2学年1組 18名

授業者 熊田 啓子

1 題材 「まもろう じぶんのいのち」

学級活動(2) ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

2 題材について

(1) 児童の実態

本校は海が近く、南海トラフ地震が起こった場合8mの津波が来ることが予想されている。そのため、学級の児童は、津波発生を想定した避難訓練を経験してきた。9月には園小合同で1次避難先まで避難する訓練も行っている。教師の後をついて避難することはしてきたが、なぜその経路を通るか、どこが危ないのかなど自分で考えて避難したことはなかった。また、1学期に生活科「レッツゴー町探検」では、福良の町を歩き、どんな施設やお店があるかを知った。公民館に行った際には、8mの津波到達点が掲示されており、津波が2階を越える高さまで来ることを知り津波の怖さを感じていた。しかし、福良地区の地形については認識しておらず、津波がどのように襲ってくるのかは、はっきりと知らない。

(2) 題材選定の理由

ジオラマは、まだ地図が見られない2年生にとって、福良地区の土地の様子が分かる教材である。扇状型で津波が大きくなる地形の特徴を分からせるためにジオラマ模型を使用する。自分の地区の周りにしか意識のない児童にとって、福良全体を俯瞰してみることで、津波がどのように襲ってくるのかが分かりやすいと考える。危険シートは、日常生活の中で災害が起こったときの様々な危険な場所や行為が絵で分かりやすく表現されている。町全体がシートになっているために、場所特有の危険や、様々な条件が重なっていることが絵から読み取れる。絵を手がかりに具体的な危険を見つけ、児童が想像力を働かせながらシミュレーションすることに適している教材である。指導については、まず、町探検で歩いたことを思い出し、ジオラマで地形を思い出させたい。ジオラマ上で避難訓練の行動を確認することで、より高く安全なところに避難することを確認する。自分たちの行動をジオラマで視覚的に意味づけする。次に、シートで置かれた状況が異なる10人の状況から、危険かどうかを判断する。危険な人にはどのように声かけをして避難させるか考えさせる。置かれた状況が異なる人物で命を守る行動を考えることで、今後災害に出会った時に、最善の方法を考えて避難する判断ができる児童に育てたい。そこから望ましい行動を考えさせる。危ない人にどのように行動すれば良いか声かけをさせることで、安全な行動をとれるように考えさせたい。

3 評価規準

3 観点をもとにした防災教育ルーブリック評価表に基づく。(別添)

4 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点(○)
1 DVD「津波から逃げる」を鑑賞する。	○これまでの津波の印象を頭に置いて、DVDの内容と自分の考えていたことを比べて鑑賞するように促す。
2 津波の特徴や怖さについて考える。	○波が低くても危険であることなどの特徴から、どのようなことが怖いのかを理由をつけて話させる。

5 本時の目標

災害時における様々な状況の中でどんな危険があるかに気づき、自分の命を守るための行動を考える。

6 防災の視点 (※)

自分の身を守る行動につなげる (C)

7 本時の展開及び使用教材

◇防災教育学習教材「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん！」(日本赤十字社)

福良地区ジオラマ模型図

児童の活動	指導上の留意点 (○)・防災の視点 (※)
<p>1 前時をふり返り、福良地区の土地の様子について知る。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p>	<p>○前時の授業をふり返らせ、津波の際の自分たちの避難経路を、ジオラマ模型で視覚的に確認する。</p> <p>○扇状地であるために、津波がより高くなることを伝える。</p>
<p>つなみが おこったとき、自分のいのちをまもるには どうしたらよいか。</p>	
<p>3 津波を伴う地震が発生したときに危険な行動をしている人を見つけ、なぜ危険なのか理由を考える。</p> <p>人物②：茫然としている人 人物④：こわくて泣いている人 人物⑥：母親と車のある低い方向へ走る人 人物⑨：鞆を取りに戻る人</p> <p>4 津波後の町の様子を知り、人物⑩の行動について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すぐに避難したから。 ・周りをよく見て高いビルを見つけたから。 	<p>○グループごとに、シート「つなみもんだい」を使って、危険な行動をとっている人に×印を貼らせる。</p> <p>○なぜ危険かの理由と合わせて、どうすれば命を守ることができるかを考え発表させる。</p> <p>○シート「つなみこたえ」を提示し、海岸近くにいる人物⑩が助かった理由を考えさせる。</p> <p>○人物⑩と周りの行動と対比させ、海の近くにおいて走ってでも、適切に判断すれば命を守れることを押さえる。</p>
<p>5 本時のふり返りをする。</p>	<p>○本時で学んだ望ましい行動を合い言葉にすることを伝え、ワークに書かせる。</p> <p>○つなみてんでんこの言葉を知らせ、人とはぐれ一人になっても避難することが大切であると伝える。</p>

8 本時の評価

津波が発生したときには、自分の命を守るための行動をとることが大切であると理解することができか。

9 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点 (○)
<p>1 みんなの合い言葉を全員に発表する。</p>	<p>○全員が考えた合い言葉を共有し、災害への意識の継続が図れるようにする。</p>

第2学年2組 図画工作科学習指導案

第2学年2組 17名

授業者 T1 松本 由香

T2 橋本 華恵

1 題材名 「しんぶんしとなかよし」

2 題材目標

- ・新聞紙に体全体で触れながら、形や触った感じを見つけ、工夫してつくる。 【知識及び技能】
- ・感じを楽しみながら、できることを考える。 【思考力、判断力、表現力等】
- ・繰り返し試しながら、新聞紙の感じを体全体で楽しむ。 【学びに向かう力、人間性等】

3 指導にあたって

【児童観】

本学級の児童は、絵をかいたりものをつくったりすることが好きで、自分の世界に入り込んで楽しく想像を広げ、活動する児童が多い。1学期には、光を通す材料を自由に選んで、造形遊びを行い、色を塗ったり、セロハンを詰めたりして、光を通して映る形や色の見え方や、見え方の変化を楽しんだ。また、友だちと材料を組み合わせたり、友だちの活動をヒントにつくりかえたり、家庭でもつくったりして繰り返し活動を広げた児童もいた。一方、一つの見え方で活動が止まってしまった児童や、自分なりのイメージを広げることが難しい児童もいた。自分たちの活動や作品の良いところを見つけて伝え合う活動では、すすんで取り組む児童が多い。友だちにほめられた児童はとても嬉しそうな顔を見せ、自分も友だちの良いところを見つけようとする姿が見られる。しかし、一方的に自分が認められたいという気持ちだけが強い児童や、良いと思う気持ちは持っているが、表現するのが難しい児童もいる。

【題材観】

新聞紙は、4月から教室に常備しており、児童は何かを包んだり、何かの下に敷いたりするなどして利用している。教室の窓のサッシには、雨漏り予防の為に新聞紙を巻いて詰めて活用しており、児童にとって身近な材料である。生活科のおもちゃづくりでは、新聞紙を丸めてボーリングの玉をつくった児童もいた。また、1年生の時には、防災学習において、新聞紙でコップやスリッパを作る経験もしている。しかし、体全体を使って新聞紙に触れたり、自由に形を変えたりして楽しんだ経験のある児童は少ないと思われる。本題材は、児童が新聞紙を用いて自由に造形遊びをする活動である。体全体で新聞紙に触れることで、いろいろな形や感じを見つけ、自分なりのイメージを広げ、何かに見立てたり、思いついたりしたものをつくることを繰り返し楽しませたい。その活動の中で、紙の特性や新聞紙だけでもいろいろなことができることに気づかせたい。

【指導観】

身近な新聞紙を魅力的な材料と感じさせ、児童の想像力を広げるためにも大量の新聞紙を用意する。また、「変身」という言葉を用いることで、「新聞紙となかよし」になるということが、児童にとってよりイメージしやすくなり、楽しく活動できると考える。前時では、破ったり、丸めたりなど手先を中心とした活動を通して、新聞紙でどんなことができるのかを考えさせて、新聞紙の扱いに十分慣れさせる。そして、さらに新聞紙を使ってできることを考えたり、思いついたりして、イメージを広げながら本時につなげたい。本時は、活動場所を図工室にすることで、児童の活動が大きくなったり、イメージが広がったりすると考える。活動の広がりの中で友だちと自然に関わったり、お互いの思いやイメージを伝え合ったり、協力して活動したりすることを期待したい。このような段階を踏むことで、発想や表現が苦手な児童の活動への抵抗感を和らげ、楽しませるようにしたい。活動中は、気づいたことや、児童の表現や発想を声に出して評価することで、児童にヒントを与えたり、意欲を高めたりしていきたい。

4 観点別の評価規準

【知識・技能】

・いろいろな形や触った感じなどに気づきながら、活動を工夫してつくっている。

【思考・判断・表現】

・新聞紙やつくったものの造形的な面白さや楽しさ、形や大きさ、触った感じなどをもとに、造形的な活動を思いつき、自分のイメージをもちながら、どのように活動するかについて考えている。

【主体的に学習に取り組む態度】

・つくり出す喜びを味わい、楽しく新聞紙に体全体で触れながら、思いついたことを試している。

5 題材計画 (全2時間)

(1) 新聞紙を破ったり、丸めたり、並べたりして、いろいろな方法で変身させる。 [1時間]

(2) 新聞紙で自分自身を変身させる。 [1時間 本時]

6 本時の目標

新聞紙の形や触った感じをもとにして、思いついたことを試し、変身することを楽しむ。

7 防災の視点 (※)

新聞紙に全身で関わる活動を通して、災害時に様々な方法で利用できることを知る。(B)

8 本時の展開

(図工室)

学習活動	指導上の留意点 (○)・防災の視点 (※)
<p>1 前時をふり返る。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p>	<p>○新聞紙でどんなことができたか、発表させる。</p>
<p>しんぶんしで 何に へんしん できるかな。</p>	
<p>3 新聞紙で思い思いに活動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人で試す。 ・複数で試す。 ・予想される変身 (コック、魔女、恐竜、お姫様、忍者、象など) 	<p>○新聞紙の上は絶対に走らないなど、事前に安全に留意して活動するように指導する。</p> <p>○活動する人数にはとらわれないようにさせる。</p> <p>○自分のイメージに合う表現ができずに困っている児童には、周囲の児童の活動の様子を一緒に見て回り、やってみたいことのヒントにさせる</p>
<p>4 本時のふり返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動したことや活動の中で気付いたこと、感じたことを、話し合う。 ・後片付けをする。 	<p>○自分や友人の活動のよさや面白さを感じ取らせる。(形・アイデア・活動の様子)</p> <p>※災害時、新聞紙がいろいろな方法で役に立つことを知らせる。</p> <p>○小さくたたんだり、のばしてまとめたりするように伝える。</p> <p>○細かい新聞紙は、ビニル袋に詰めて保管し、他題材で活用する。</p>

9 本時の評価

新聞紙の形や大きさ、触った感じをもとに思いついたことを試し変身することを楽しむことができたか。